SPACE GUIDE　宇宙年鑑 2004

アストロアーツ ＆（財）日本宇宙少年団編

（株）アストロアーツ発行，128 頁，1,480 円＋税

資　料
お薦め度
☆☆☆⯪★

このムックは “SPACE” すなわち宇宙科学と宇宙開発に関する年鑑である．私たちになじみ深い理科年表や天体位置表のように，年鑑は毎年発刊されるデータ集であり，多くの場合，専門家や愛好家の座右に置かれバイブル的に利用される．年鑑の一般的な評価尺度として，私は次の 7 点が重要ではないかと考えている．

(1) 扱う項目の選択，(2) 明確な読者対象の設定，(3) データの正確さと新鮮さ，(4) 項目の並べ方やレイアウトなどによる読みやすさ，(5) 実用的なインデックス，(6) 丈夫な装丁，(7) 価格．

この宇宙年鑑 2004 の場合は，元々，（財）日本宇宙少年団 (YAC) が会員向けに編纂していたデータを基に，昨年までは「スペース・ガイド」（丸善）として出版されてきた年鑑を継承・発展させる形で創刊されており，YAC 会員＋天文ファン（星ナビや天文ガイドの読者層）＋α を読者対象として構想されたようだ．創刊号とあって紙面の約半分がトピックス（JAXA の紹介，探査機・人工衛星の最新情報と将来計画）で残りの半分が資料編（ロケット，人工衛星，探査機，有人飛行ほかのデータベース）と意欲的な構成となっているがやや中途半端な天文データ編は必要かどうか検討すべきであろう．特に四季の星空紹介 5 ページ分に違和感を感じた．YAC 会員にとっては，この一冊で天文・宇宙のデータすべてを含んでいると便利だが，一方，天文ファンは天文データについては別のお気に入りの年鑑を購入するであろう．また，ほとんどの YAC 会員が小学生なのに，大人向けの解説に終始している点も気になった．

さて，データ集としての信頼を勝ち得るには，(3) が重要な要素であるが本書はいかがだろう？専門外の私にとって正確に評価することは難しいが合格点レベルではないかと考える．特に今後の計画などは解説も詳しく活用のし甲斐がある感じだ．一部にミスもあるが創刊号ということで大目にみたい．例えば，SOLAR-B の打ち上げ予定が p. 87 では正しい 2006 年度なのに対し，p. 97 では 2005 年予定と間違っている．また，はるかの運用が p. 15, p. 87 では正しく記載されているのに，p. 99 ではすでに運用が停止していることになっている，等々．

私がこのような年鑑で最も気になるのは，実は，データ検索のしやすさ（(4) と (5)）である．まずは，索引を開いて適当な用語を探してみたり，目次から必要な用語に行き当たるかを試してみる．索引や目次などが充実していれば購入を決め，使いにくいときにはついつい買いそびれてしまう．本書の場合，残念ながらこちらは及第点を出しにくい．すべての用語をあいうえお順に並べるだけでなく，ロケット，探査機，人名，天体名ごとのインデックスもあるとよい．

いくつか改善要求はあるものの，日本で唯一の宇宙年鑑として今後どう発展・定着していくか楽しみだ．あえてムックにし定価を抑えた戦略も評価したい．できれば本書の内容の一部でも Web で閲覧可能になればと願う．

縣　秀彦（自然科学研究機構 国立天文台）